邑南町阿須那（あすな）・口羽（くちば）地区

阿須那と口羽が手を取り合ってつくる「はすみの村づくり」

2地区連携
5年計画で
取り組み中！

阿須那地区と口羽地区は平成16年の邑南町合併まで「羽須美村」という地域でした。地区の人口減少や若者の流出など地域活動の担い手の確保が課題となる中、重要な公共交通機関である三江線の廃線が決定しました。2つの地区で同じ危機感を共有し、力を合わせ「デマンド交通」を開始。両地区が一体となって困難に立ち向かう機運が高まり、買い物支援や生活を支える活動を進めています。

Background これまでの地区のあゆみ

阿須那地区 ／ 口羽地区

- H16 **平成の大合併**／羽須美村と瑞穂町と石見町が合併し邑南町が誕生 H16
- H20 **県の中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクトのモデル地区に選定（H20～22）**
  - **「YUTAかプロジェクト」を設立**
    阿須那地区の4つの自治会が集まって設立した地域運営組織
    高齢者サロン「よりんさいや」の運営や、JAから阿須那給油所の運営を受託（R2～）している
  - **「口羽をてごぉする会」を設立**
    口羽地区の活性化のため設立した地域活動団体
    高齢者サロン「悠遊サロン」の運営や、町有施設「はすみ交流センター」の指定管理を受託している H22
- H28 **「交通を考える会」を設立**／JR三江線の廃線が決定し、地域住民による検討組織が立ち上がる H28
- H30 **JR三江線の廃線** H30
- **「NPO法人はすみ振興会」を設立**／「交通を考える会」から発展し、両地区の住民の移動を支えることを目的とした法人を立ち上げ
- **「はすみ会議」を設立**／両地区の住民で構成する、地域活動内容等の意思決定を行う
- H31 **デマンド交通「はすみデマンド」を運行開始**／NPOはすみ振興会が実施する予約型の送迎サービス H31
- R2.11 **「あすな地区応援隊」を設立**
  「はすみ村づくり計画」を実行する組織を立ち上げ、阿須那地区住民の生活を支える活動を実施している
- R3.3 **「はすみ村づくり計画」策定**
  「解決したい課題」「課題解決に向けた取り組みの方針」「5年後（2025年）に目標とする成果」の3つを柱とする計画 R3.3

Data

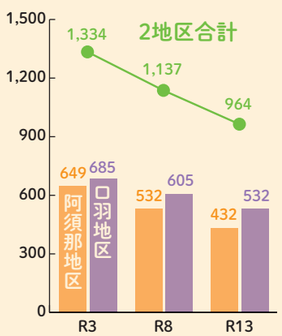
阿須那地区　人口　649人
（高齢化率 58.4%）

口羽地区　人口　685人
（高齢化率 56.4%）

○ 地域の特徴

- 集落がまばらに点在し、商店などの主要施設はそれぞれの地区の中心部に固まっている
- 口羽地区には邑南町羽須美支所が、阿須那地区には羽須美中学校がある
- 阿須那地区には住民組織がJAから委託を受けたガソリンスタンドがある

10年後の人口予測



※しまねの郷づくり応援サイトから引用

Step 小さな拠点づくりのステップ

step.1 共有

危機感からのスタート

人口減少、高齢化の進行にともない、阿須那・口羽地区では、タクシーや旅館、飲食店などのサービス事業者の廃業などにより、生活に必要な施設が少しずつ姿を消していました。そんな中、平成28年にJR三江線の廃線が決定し、その2年後、廃線に。地域の重要な交通インフラがなくなったことで、住民は人口の流出や地域の衰退がさらに進んでいくのではないかと危機感を抱きました。これをきっかけに、地域住民の移動手段を確保しようと検討組織が立ち上がりました。そして、平成31年からNPOはすみ振興会が主体となって両地区の住民の移動を支援する「はすみデマンド」が運行を開始。すると住民の間に、他の活動も連携して取り組んでいこうという機運が高まりました。

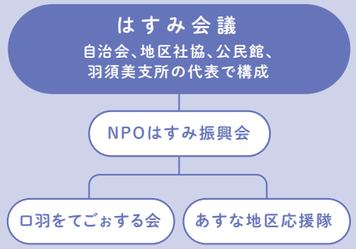
step.2 計画

一つの目標に向かって

まずは阿須那地区、口羽地区それぞれでワークショップを実施。20代～80代までの幅広い年代の方が集まり、地域の魅力や課題、理想の姿について話し合いました。それぞれのワークショップでは、車を運転できない人の移動手段がないことや買い物ができるお店が近くにないなど共通の課題がでました。これらの意見を持ち寄り、次は両地区の代表者が集まって話し合いを実施。併せて、全住民にアンケートを行い、広く住民の声をひろいあげました。両地区で連携して取り組むべき課題などについてさらに検討を進め、目指すべき5年後の将来像に向けた取組をまとめた「はすみ村づくり計画」をつくりあげました。

step.3 体制

連携と役割分担で住民の暮らしを支援



「NPOはすみ振興会」は、デマンド交通や両地区一体となった広域の地域活動を実施していくにあたって、住民の意志を反映していくための住民代表による意思決定機関「はすみ会議」を設立しました。また、阿須那・口羽の両地区で計画を進めるためには、各地区においてそれぞれの実施体制を整える必要があると考え、口羽地区で既に活動を始めていた「口羽をてごぉする会」に加え、阿須那地区に「あすな地区応援隊」を新たに立ち上げ、組織運営体制を構築しました。

step.4 実践

今あるものをさらに良く

現在の取組の中心である、有料デマンド型送迎サービス「はすみデマンド」では、両地区に受付窓口を設置し、きめ細やかに住民の移動をサポートしています。今後、両地区に市街地に向かうバスとの結節点となる交通拠点の整備や、両地区内で手に入りにくい日用品などが購入できるよう、地元企業と連携した買い物支援の仕組みづくりなどを検討しています。

step.5 発展

みんなが一つに

今後は、住民ワークショップで出た意見も踏まえ、若い世代が地域活動に参加しやすくなる集いの場づくりなど、子育て世代や学生など様々な世代を対象とした活動にも広げていきます。これからの生活がもっと豊かになるように、オールはすみで取り組んでいきます。

私たちのやり方
Our Project

地域をつなぐ 有料デマンド型送迎サービス「はすみデマンド」

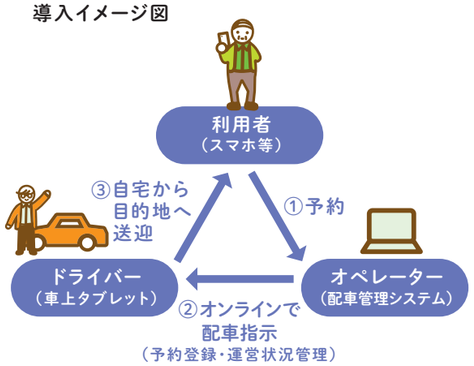
◀タブレットで配車指示を確認するドライバー

パソコンで予約状況を確認する事務局▶

「NPOはすみ振興会」が利用者から予約を受け、ドアツードアで自宅から羽須美地域内の目的地まで送迎する「はすみデマンド」。各自治会からドライバーを出し合い、それぞれが登録した自家用車を使って運行しています。利用者は事前に回数券を購入し、乗車する際にドライバーへ渡します。利用目的の8割以上が通院のため、利用者にとって欠かせない交通手段となっています。

まちの人の声 今までは病院や、買い物に行くための移動手段がなく、なかなか外に出られなかった。「はすみデマンド」ができたおかげで外に出やすくなり、本当に助かっています。

▼デマンド交通への配車システムの導入イメージ図



step.1 きっかけ

JR三江線が廃止になったことで重要な交通インフラを失い、車の運転ができない人や、遠いバス停まで自力で移動できない高齢者等の移動をどう支えるかが喫緊の課題になりました。

step.2 計画

地域の生活交通について検討する「交通を考える会」が立ち上がり、両地区から集まった住民が話し合いを実施しました。利用者の希望どおりの時間に自宅から送迎が可能なことを求められていたため、デマンド交通を進めていくという方針に決まりました。そして、「交通を考える会」に参加していた有志で「NPOはすみ振興会」を設立しました。

step.3 トライ

NPOはすみ振興会が事務局となり、ドライバーを募集するため、住民へ声かけを行いました。8つ全ての自治会から4人ずつ参加があり、32人が国土交通省の運転者認定講習を受け、運行しています。

step.4 見直し

利用者からの予約やドライバーへの配車は電話で行っていましたが、手間がかかる上につながらないこともあり、効率化が課題でした。ちょうどその頃、邑南町とJR西日本が地域交通の予約・配車等の機能を集約したシステム開発の協定を結んでいたことから、その共同研究に参画。JRのシステムを導入することで、利用者はスマホで予約が、またドライバーはタブレットで配車指示が確認できるようになるなど、運用の効率化を図っています。

next これから

地域内を移動する「はすみデマンド」から地域外へ出るバスへの乗り換えをスムーズにするために、ターミナルの整備を計画。このターミナルが交通だけでなく、住民同士の交流拠点となるよう、整備場所や機能について住民で話し合いを重ねています。また、高齢者が地域内で買い物ができるよう、デマンド交通を活用して商品の仕入れや配達を行う、貨客混載の仕組みなどを検討しています。

▼「はすみデマンド」の利用方法

料金表

距離	料金
～1km	200円
1～2km	300円
2～3km	400円
3km～	500円

運行情報

- ●送迎の範囲は羽須美地域（阿須那地区・口羽地区）内全域
- ●予約受付は月曜～金曜の13時～16時
- ●送迎の時間は月曜～日曜の8時～19時

Interview 地区のこれからと想い

阿須那地区

応援隊の実働と継続を支える仕組みづくりに尽力

あすな地区応援隊　会長
瀧本 昭平（64歳）

「高齢者ばかりになり、これから5年先にはもっと大変になる。阿須那はいいところで一生ここで暮らしていきたいが、どうしたらいいのだろうか」と考えるようになったという。そうした思いから「はすみ村計画」を考えるワークショップに参加し、計画を実行するために、「あすな地区応援隊」を令和2年11月に発足した。

「人口減少と高齢化が進む中、高齢者が不自由のない暮らしを営み、一生を阿須那で過ごせる力になる組織を目指す」と瀧本さん。地域の困りごとを共有し、住民の方に対してはこんな助けがあると提案したい。自分たちの助けを利用してもらうことで快適な暮らしづくりにつなげたい。

「応援隊の活動が雇用を生み収入につながり継続すること。この事業の5年間が終わっても組織として自立し、助けを必要とするみなさんを支えていかねばならない。課題は見えているのでしっかりとした実働部隊をつくり、儲かる仕組みづくりを進め、口羽地区から学ぶべきところは学びしっかりと連携協力していきたい」と見通しを語ってくれた。

口羽地区

知恵と人を出し合って生活環境を守っていく仕組みをつくりたい

口羽をてごぉする会　事務局長
NPOはすみ振興会　副理事長
小田 博之（68歳）

地区の高齢者の暮らしを手伝うことを目的に10年前に「口羽をてごぉする会」を立ち上げた。地区の困りごとを民間の力で支援する新しい仕組みだ。その背景には急激な過疎という現実があった。進学や就職で出ていく人を引き留めることもかなわず将来故郷に戻ってくることもない。ではこの先どうやって地域を維持していくのか、地域にとって何が大事かと仲間で話し合った。小田さんらは地域にどのような課題やニーズがあるのか、高齢者世帯を一軒ずつ訪ねて徹底的にヒアリングを行い、地区の課題を細かに掘り起こした。現在は困りごとの解消だけでなくサロンやお出かけツアーなど楽しみの提供も含め高齢者の暮らしに寄り添う様々な「てごぉ」を行っている。

「阿須那地区も高齢化でかつてのパワーがなくなっているが、阿須那の力がないと小さな拠点づくりはできない。共に知恵と人を出し合って交通、買い物、農地管理、そして楽しみの場づくりなど、生活環境を守っていく仕組みをつくりたい」と協働に期待を寄せる。

今後の計画
Our Planning

1. いつまでも安心して暮らし続けられる環境づくり	●ターミナルの整備 ●交通システムの開発
2. 誰もが楽しく暮らせる「集いの場」づくり	●サロンの充実 ●困りごと解決の体制づくり
3. 出身者としっかりつながってUターン・Iターンを増やす仕組みづくり	●関係人口のリスト化 ●住まい、仕事、遊びの環境づくり ●「はすみ新聞」の発行やSNSの活用
4. 若い世代も楽しく暮らし地域活動へも参加しやすい環境・雰囲気づくり	●子どもを地域みんなで育てる仕組みづくり
5. 美しい里山景観や農地を守り活用する仕組みづくり	●有効な鳥獣害対策の研究 ●里山体験プログラムの開発
6. 集落や自治会を超えて助け合う体制づくり	●地域団体や自治会の役員など人口に見合わない数の「役」を見直し